

COLORAMA L'ENCICLOPEDIA TUTTA A COLORI

蘇子學堂

COLORAMA

L'ENCICLOPEDIA TUTTA A COLORI

21世紀
世界百科
カラマ

4

監 修

上智大学名誉教授

小 林 珍 雄

早稲田大学教授

坂 崎 乙 郎

日本イタリア京都会館理事長

聖心女子大学教授

京都大学名誉教授

野 上 素 一

日本育英会会長

前 東京大学総長

林 健 太 郎

(50音順)



© Arnoldo Mondadori Editore - Milano 1970
Originally Published in Italy under the title 'COLORAMA',

Published in Japan 1979
by Shufu - to - Seikatsu - Sha Co., Ltd., Tokyo.
Japanese translation rights

arranged with Arnoldo Mondadori Editore - Milano
through Tuttle - Mori Agency, Inc., Tokyo.

Credit lines and original publications
of the photographs and materials
used in these books are listed
on the 4th page of the supplement
found at the end of the 10th volume.

コット Robert de Cotte 1656-1735 フランスの建築家。義理マンサールに師事し、ベルサイユの礼拝堂など共同制作も多い。1700年、リヨン市庁舎の建築を手がけ、8年からは宮廷建築長となった。ドイツ、スペイン、イタリアなどの旅をうけて、フランスの宮廷建築様式を示す旅記をつくり、バロックからロココ様式への過渡的な建築家として活躍した。

ゴットウィン William Godwin 1756-1836 イギリスの政治哲学者。非国教徒の牧師の家に生まれ、ボストン大学卒業後、牧師となったが、しだいに無神論者となり、1783年にロンドンに出て著作活動をはじめた。「政治的正義に関する研究」2巻(79)で、文明による人間疎外と私有財産制度の害悪を説き、その無政府主義的な思想は、フランス革命に衝撃を与えたイギリス思想界に大きな影響を与えた。81年に女流学者メアリー・ウォレスとクラフトと結婚したが、同年に妻を失い、1805年からはじめて出版業も失敗して苦しい生活を送った。しかし、研究はつづき、マルサス説に反対する「人口論」(20)、「イギリス政治史」4巻(24-28)などを著わした。

ゴットシェット Johann Christoph Gottsched 1700-66 ドイツの文芸理論家。1730年からライプツィヒ大学の教授として、ドイツ演劇の革新、フランス演劇の紹介、ドイツ語の統一などにつとめた。評論「ドイツ人のための批判的詩法試み」(30)、戯曲「蘭死のカトー」(32)などがある。

ゴットシャルク Gottschalk 810?-869? ドイツの神学者、詩人。オルペーのゴットシャルク、ゴッドスケルなどともいう。マインツ生まれ。幼時をフルダの修道院で送ったのち、フランスのオルペーの修道院に定住。835-840年にフランスの司祭をつとめた。神の政治は永遠の栄光を与えられた人にしか与えられないという予定説となし、848年のマインツ宗教会議で異端の烙印を押された。神学著作のほか教訓詩、宗教詩が多数ある。

ゴッドセーザキング God save the King イギリス国歌。〈神よ王を守らせたまえ〉の意。女王治下の場合、キングはクイーンになる。作者は不明であるが、1740年ころ目、ケアリが作詞、作曲したともいわれ、46年、ハノーバー朝国王ジョージ2世が第2回ジャコバイトの乱鎮定を記念して、制定したとも伝えられる。

ゴットフリートフォンシュトラッスブルク Gottfried von Strassburg 1170?-1210? ドイツの詩人。その生涯については不明であるが、中世ドイツの代表的な叙事詩人のひとり。晩年の作品「トリスタン」は、騎士トリスタンと伯父の妃イゾルデとの不倫関係に高揚した恋愛を、洗練された文体でうたったことで知られる。

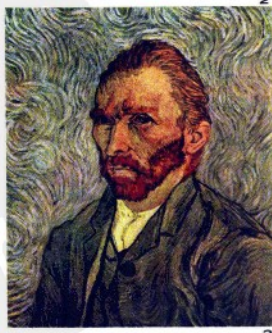
ゴットヘルプ Jeremias Gotthelf 1797-1854 スイスの小説家、本名アルベルト・ビツィウス。父のあとを継いで新教の牧師となり、農民の精神的向上のために物語を執筆、写実主義をこえる深い人間洞察を示して反響を

呼んだ。代表作「作男ウーリ」(1841)、「小人ウーリ」(49)は、農民を主人公とする教養小説の傑作として名高い。ほかに「農民の鏡」(37)、「悪い蜘蛛」(42)など。

ゴットル Friedrich von Gottl-Othilienfeld 1868-1958 ドイツの経済学者。ウィーン生まれ。ハイデルベルク大学でウニス、マックス・ウェーバーに経済学を学び、1902年から、ブリュン工業大学、ミュンヘン工業大学、ハンブルク、キール、ベルリンの各大学の教授を歴任。経済学における自然科学的な方法論を推し、個人主義を脱して、経済活動の主体を社会構成員におくことを主張した。彼の的方法論は、その全体主義的な傾向からナチに重用された。著書「経済の本質および根本概念」(33)、「民族・国家・経済・法律」(33)など。

ゴットワルト Klement Gottwald 1896-1953 チェコスロバキアの政治家。1921年の共産党創立に参加。29年には書記長に選ばれ、国会にも議席を占めた。38年、ナチの侵略を受けてモスクワに亡命。解放後の45年に帰国し、副首相、ついで首相となり、48年の二月革命ののち、ベネシュ大統領のあとをうけて大統領に就任した。スターリンの暴政に参列後、病に倒れた。

コットンベルト Cotton Belt アメリカ合衆国南部の広大な「棉花地帯」をさす。ワタ栽培地帯。大部分が砂質ロームの低平な海岸平野であるが、栽培条件として重要なものは気候で、開花前に高温多用、開花後は乾燥



ゴッホ Vincent Van Gogh 1853-90 オランダの画家。東ブラバントのフローレンス・デルフト村に、カルビン派の牧師の長男として生まれた。16歳のころ、伯父の紹介でハーグの両商、グーゼン商会に就職したが、美術画に傾き、哲学や宗教に興味をいだいて職務にふさわしくない行為が多かったため、1876年には解雇された。この期間に、レンブラントやミレー、コロなどには深く傾倒するが、他方、宗教への熱意も高まって、奉仕に生きる決心をし、77年、アムステルダムに出て牧師になる期

望をはじめた。翌年、ブリュッセルの短期牧師養成所を卒業して、ホリナージュの果敢地区の貧しい住民のあいだで熱心な牧師活動をはじめたが、彼の短い生涯のうち、以後もしばしばこうしたように、そのあふれるような熱意は誤解を招き、ついに任を解かれた。一人信者を受け、後者とのかわりを求る熱意は、承愛した何人かの女性や、後年アルで生活をともにしたゴッガンなどから受けてきつた。絶望的な後援を経験することになる。激しい熱情と耐えがたい衝動が、彼の生涯

のすべてを支配した。80年ころから絵を描きはじめ、デュッセルやワグに助んだ。83年にはエメンにあった父の家にどって制作をつづけたが、この時期には、「馬鈴薯を食べる人々」(85)写真●部分にみられるように、暗い色彩で農村の生活などを描いている。彼が色彩や光に満ちた鮮やかな絵を描くようになるのは、86年にパリに出てロートレックやベルナルと知り合い、ゴッガンに出会って印象派の絵画を知ってからである。しかし、パリ時代の彼はまだ点描的であり、代表作のほとんどは、88

と日照が必要とされる。ワタ栽培は、すでに植民地時代に黒人奴隷の豊富な労働力を用いた単一栽培のプランテーション形成ではじまっており、アラバマ、ミシシッピ両州を中心に、近隣のサウス・カロライナ、ジョージア、ルイジアナ各州でおこなわれ、ついにはノース・カロライナ、テキサス、アーカンソーから近年ではカリフォルニア、アリゾナ各州にもひろがっている。品種は、リクテンを主とし、世界総生産量の約2割をコットンベルトで産する。同地帯内では、テキサス州が第1位で、ニューオーリンズには世界的な綿花取引所がある。

こつなかしょう 骨軟化症 骨組織の石灰含有量が少ないため、骨の硬度が低下し、骨格が変形しやすい状態。ビタミンDや骨髄質の不足、石灰の沈着が悪くなっている小児のくる病が代表例で、下腿は休車を支えきれずO脚、X脚などの変形をおこす。また、妊婦にもおこりやすいといわれている。

こつにくしゅ 骨肉腫 骨におこる悪性腫瘍。10~20歳の若年層に多く、肩や股などの長骨の先端がおこりやすい。肉腫の肥大に伴って骨や関節の痛みを感じ、局部がはれあがり、運動障害がおこる。治療は抗癌剤の投与と手術による患部の切除を併用する。

コッパー Theodor Emil Kocher 1841~1917 スイスの外科医。1872~1911年にはベルン大学で外科学教授をつとめる。甲状腺癌性悪性疾患についてはじめて記載

したほか、肩関節脱臼の治療法、胃切除、人工肛門術、コッパー鎖子(かんし)の考案など外科学のあらゆる分野に多くの業績を残した。とくに甲状腺についての研究によって1909年、ノーベル生理・医学賞を受賞した。

こつぱん 骨盤 腰の部分形成する骨格。背面は第5腰椎、仙骨、尾骨、側面は左右の寛骨、前面は左右の寛骨からなり、全体にすりばちのような形をしている。成人の男女では骨盤の形にいちじるしい相違が認められ、骨盤の出口は分娩の産道となるので、女性のほうが広くなっている。骨盤内腔が狭いものを狭骨盤といひ、分娩時に難産をおこしやすい。

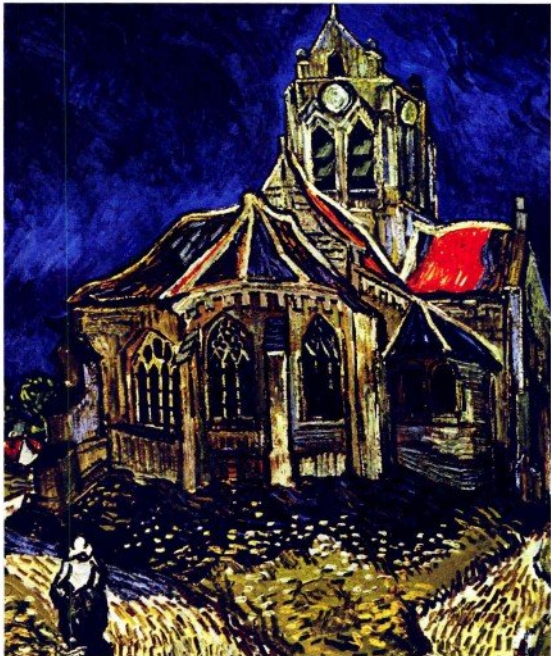
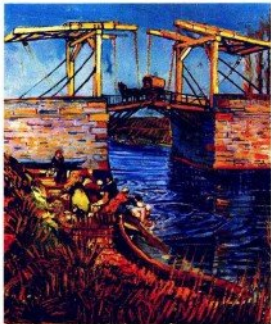
ゴッビ Tito Gobbi 1915~ イタリアのバリトン歌手。本名バッキアー・モデル・グラッパ。1937年、ウィーン国際音楽コンクールで第1位を獲得。以来、ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心に活躍している。オペラ歌手中、我々の演技力で有名。当り役は「サロメ」のヨハネ、「オテロ」のイアーゴ、B. クリストフとは兄弟弟。

コッパ Lee J. Cobb 1911~ アメリカ合衆国の俳優。本名ジョー・コッパ。ニューヨーク生まれ。画家志望から俳優に転じ、1936年に「グループ・シスター」で活躍、とくにオッド作品で好評を得た。37年以後は映画にも出演、個性性的悪役に精彩をみせている。代表舞台「ヒールスマンの死」(49)、代表映画「影なき殺人」(47)、「流石場」(54)、「カフマツゾフの兄弟」(58)。

コッホ Heinrich Gottfried Koch 1703~75 ドイツの建築家。ワイプスヒル大学で法律を学んだ。1728年ノイバーン座にはいり、建築、座付作者、舞台美術家として活躍。レッシングの協力をうけた。49年に自分の一座を結成、レッシング、ゲーテ、モリエールなどの作品をドイツ各地で上演し、その普及に大きな役割を果たした。アッカーマン、エクホフとならぶドイツ近代演劇術の開拓者のひとりとして、とくに古典喜劇の演出に数々の革新をおこなった。最大の当り役は「守銭奴」の主役。

コッホ Robert Koch 1843~1910 ドイツの細菌学者。医者。クラウンフェルで生まれ、ゲッティンゲン大学で医学、ベルリン大学教授、伝染病研究所長などを歴任する。細菌の顕微鏡的研究をおこなった。1876年、肺炎菌(びだっそ)菌の伝染経路の解明とその純粋培養に成功した。この研究過程で細菌の標本固定法、染色法、純粋培養法、固定培養基、顕微鏡写真撮影法などを創始し、近代細菌学を確立した。また、各種伝染病には識別可能な特定の病原菌であることを力説し、多くの病原菌の発見につとめた。なかでも、82年の結核菌。85年のコレラ菌の発見は有名で、89年にはツベルクリンを創製した。このほか、牛痘の予防と治療、ペストなどの疫学疫学研究、マラリア、アフリカ熱、取り締りなどの伝染病の研究に多くの業績を残した。1905年、結核に関する研究によりノーベル生理・医学賞を受賞。

ゴッホ → 写実画目 前ページ。



年2月に南フランスのアルに移ってから死までの2年間のあいだに描かれたもので、アルの町と健康上の生活のなかから「見聞録」(89) ニューヨーク近代美術館蔵)などが生まれた。同年10月にゴッガンが没し、2か月をともに暮らしたが、性格的にも違っていた二人はしばしば意見を持たせ、同年のクリスマス・イブに最初の別居をおこなったゴッホは、自分の耳を切り落とすという、1か月間、病院に収容されたあと、「耳を切り落した自画像」(89)などを描くが、激しい精神の緊張が写像を透達し、

入院をくりかえした。1年間はいついてプロバンスのサン・レミの療養所では、「療養所の様子」(90)と「オテル」(90)など200点以上を制作したが、90年5月には、くりかえす発作に悩まされパリに帰り、近所のオーベル・シュル・オウスの民衆ガッシュのもとに身を寄せた。一時は健康も回復したが、発作の不安や疲労が重なって7月にピストル自殺を企て、その2日後に死んだ。セザンヌ、ゴーガンとともに後期印象派を代表する偉大な存在とされているが、画家として生きる決意をしてから37

歳で死ぬまで、画家ゴッホの活動期間はわずか10年にすぎなかった。唯一の姉弟であった実弟テオの、膨大な量の書翰が1914年に刊行されてゴッホの精神とその苦悩が明るみに出たが、生前はおうと死後20年ののみち、彼の芸術は正しい評価をうけなかった。写真●「ひまわり」(88) ロンドン・ナショナル・ギャラリー蔵。●「自画像」(90) フランス・印象派美術館蔵。●「アルルの夜明け」(88) オランダ・クレラー・ミュラー美術館蔵。●「野栗樹」(90) オーベルの教会(90) 印象派美術館蔵。

こつぼう 骨法 中国で、形体を描写するさいに重視される絵画の用語。古くは、人間の骨格をさす語であったが、東晋の画家、顧恺之（ごかいし）が、いふきとしだして描写することを説き、この語を用いた。南唐の謝赫（しゃかく）の著した『古画品録』では、正確、精密な形体描写の基礎となり、また画面をひろくするものとして六画法の中にあげられている。その後、唐末宋初の張彦遠（ちやうげんえん）は気韻と合わせて「骨気」の語をつくり、筆運の速達、抑揚などによって、写実のうえに生命感を与えるものとした。

コッポラ Francis Ford Coppola 1939— アメリカ合衆国の映画監督。ニューヨークで演劇を、カリフォルニアで映画を学び、ハリウッドで「バリは燃えているか」などのシナリオを手がける。その後、1969年の傑作「月の中の子」ではサン・セバスティアン国際映画祭の監督・作品賞を受賞。71年には、スタジオをイタリア系で固め、タブー視されていたマフィアを正面切って描いた大作「ゴッドファーザー」で世界的ヒットをとばして、オス・ハリウッドのニュー・シネマに変わるニュー・ハリウッド派の旗手となった。74年には続編「ゴッドファーザーPART II」でアカデミー監督賞ほか6部門で受賞、苦戦ともに新しい映画の旗手を認められた。

こつまく 骨髄 骨の表面を包む結合線維性の膜。帯白色の繊維でじょうぶな膜で、内外と離れる。一部

は骨組織のなかにも通入し、骨と骨髄の結合を強めている。骨形成時には、骨膜から骨質が形成され、骨幹部の癒着をおこなう重要な造骨組織としての機能をもつ。また、毛細血管と神経線維が多く分布し、骨を保護している。

こつまくとん 骨髄炎 骨膜における炎症の総称。ぶどう球菌、連鎖球菌の感染によっておこるものが多い。こつまくにみられるのは、急性化膿性骨髄炎の進行にともなって発生するものである。これは菌が骨髄からハバモ管を通じて骨髄に達し、骨髄下膿腔を形成するものである。症状は患部がはれて赤くなり、痛みを感じ、ときに発熱が認められる。治療は初期にはサルファ剤、抗生物質が効果的で、手術で切開排膿することもある。

こつめいろ 骨迷路 内耳の一部を構成する骨質の複雑な洞腔。蝸牛殻、半規管、前庭器官からなる。

コッラディーニ Enrico Corradini 1865—1931 イタリアの小説家、政治家。サン・ミニアト出身。国粋主義の理論的鼓吹者で、1903年に極右雑誌「イル・レーニョ」(王国)を創刊、ファシズムに協力し、ムソリーニを支持した。代表作「はるかな組国」(10)。

コッツランド Coats Land 南極大陸のウェッデル海東岸の地域。1902—4年のスコットランドのグループ隊によるウェッデル海調査のさい、4年に発見された地域で、名称は同隊の後援者になちなみ、コッツランドの調査

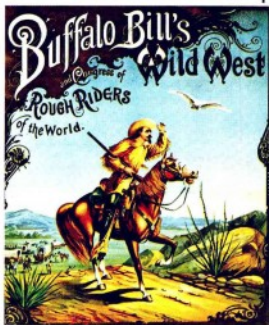
は、57—58年の地球観測年に沿岸部を対象としたのみで、内陸部にはおよんでいない。基地に南西端のシャクルトン、69—70年に越冬した中部のハリー・ペイがある。

こつりん 骨鱗 ぶつうの硬骨魚類にみられるうち、真皮に由来する薄いうちで、屋根がわらに配列する。うろこの形状から円鱗と楕(へちま)鱗に区別される。円鱗はコイやニシンにみられ、円形または長円形。骨鱗はタイやスズキにみられ、うろこの一部に多数のうろこがある。

コッロディ Carlo Collodi 1826—90 イタリアの児童文学者。本名 C. ロレンツォーニ。青年時代、熱心な愛国主義者として、1848年のイタリア統一、独立運動に参加。のちジャーナリストとして政治評論の筆をとり、80年ころから児童文学作品を執筆した。とくに「児童新聞」に連載した「ピノッキオの冒険」(80—83)は、ディズニーの「クオース」とともに、世界児童文学の傑作として高い。ほかに、「目と鼻」(81)、「楽しい話」(87)など。

コティ René Coty 1882—1962 フランスの政治家。1923年、下院議員に当選。共和軍でも左派に属した。第2次世界大戦後も独立共和派から国民議会議長(下院)に議席を占め、シュマン内閣では復興相をつとめた。54年、第四共和政第2代大統領に就任。58年のアルジェーの暴動を機に、ド・ゴールを首相にむかえた。

コーディー 写真項目



コーディー William Frederick Cody 1846—1917 アメリカ合衆国の探検家、騎手(騎手)●●。本名、ウィリアム・フリード・コーディー。1867年に、アイオワ州スコットの家に生まれ、もっぱら馬の世話をして、15歳のときに大排練新鉄道建設団の(2人1小隊)急行隊の騎手になった。南北戦争では、第9カンザス騎兵隊の騎手として、キオワ、コマンス族討伐に加わり、デネー、ミズーリの両州を転戦した。戦争終結後は、カンザス半鉄道会社の長崎運送のためのバッファロー(野牛)

狩猟人となる。17月のあいだに1200頭のバッファローをしとめたといわれ、そのため「バッファロー・ビル」と呼ばれるようになった。1868—72年には、ふたたび合衆国陸軍の騎兵としてインディアン討伐に参加し、カスター将軍の軍隊のガイドをつとめていた76年には、シイアン族の酋長シロー・ハンドを討伐し、伝説的な西部男として名声をとろかした。彼は、シューマンとしても有名で、すでに72年に自分も主人会に加入したワシントンに出演していたが、83年には、多数のインディ

アンやカウボーイを集めて「大西部ショー」を企画し、合衆国やヨーロッパを巡回して大成功をおさめた。写真●●は合衆国ワイオミング州のコーディー博物館の騎手ポスター。興行のうち、とくに長年のライフル射撃の名手アーニー・オーグーとの射撃競技は好評で、のちに、ミュージカルや映画にもなった。合衆国の大衆小説や西部劇映画のなかでも、有名な英雄のひとりである。コロワッドンバーから20マイルのブラックアウト山の岩上に墓がある。

ゴティエ *Lys Gauty* 1908— フランスのシャンソン歌手。若いころから各地のミュージック・ホールで歌い、不運な時期を送ったが、1933年に「三文オペラ」の「海賊ジニー」の歌で、ディस्क大賞を受賞。シャンソン・アーティスト型の歌手として人気を集めた。50年に引退。映画「巴里祭」(32)の主題歌でも知られる。

コディアクとう — 島 *Kodiak I.* 北アメリカ北西部。アメリカ合衆国アラスカ州の島。面積8975平方キロ。アラスカ半島西部とシロコフ海峡をはさんで相対する。アラスカ州西部の島で、1764年にロシア商人によって発見された。海岸線は複雑で小島や岬角が多く、東部は森林が占める。主産業は沿岸漁業。毛皮取引、牧畜など。なお、北東岸には1939年建設の合衆国海軍の航空・潜水艦基地がある。主要な町はコディアク。

コディアさんきょうみあい — 産業組合 ブラジルのサン・パウロ州を本拠とする大規模な農業協同組合。ジャガイモ、野菜、果実の栽培や、畜産などの集約農業を始めた日本人移住者によって、1927年に同州コディアに創設された。同組合の中心となる機能は販売事業で、価格変動の激しい近郊農作物に対して生産者価格の確保に尽力し、近郊農業を発展させてきた。現在ではその莫大な供給量によって、組合から価格を指示し、市場を支配するまでになっている。いっぽう、肥料、農機具から生活用品にいたる広範な購買活動とともに、金融活動もおこ

なっており、農業試験場や運輸・医療機関なども偏る。きわめて規模の大きい組合に、独力で発展した。組合員1万2000(1967)は5州に分布し、本部はサン・パウロ市におかれている。

ゴティエ *Denis Gaultier* 1603?—72 フランスのリート奏者、作曲家。マルセーユ生まれ。1620年代からパリの社交界で活躍。17—18世紀ヨーロッパのリート音楽に決定的影響を与えた。とくに、声楽を自由に装飾的に埋める「プリゼ・スタイル」は、クラヴサン音楽にまでおよんでいる。代表作「神々の修練法」(64—72)。

ゴティエ — [写真項目]

こていえき 固定費 生きている組織や組織の一部を固定するために用いる試薬。生細胞の外形、内部構造、物質組成などを顕微鏡で観察するため、生きている状態に近いまま保存する操作を固定という。一般に、たんぱく質を凝固させる固定液を利用する。一方に固定液は、原形質を収縮させ、その透過性を低めたり、原形質内の物質を流出させ、その成分組成を変えたりする欠点がある。これらの欠点を補うさまざまな試薬が開発されている。

コティヨン *cotillon* (仏) 19世紀に流行した社交ダンスの一種。先導の1組が自由なフィギュールを組み合わせて踊り、各組がそれに従って踊る。音楽はワルツやマズルカなどが多く、一般に舞踏会の最後に踊られる。

コデイン *codeine* (英) 阿片にふくまれるアルカロイドの一種。メデルモルにネオという。化学式 $C_{18}H_{19}O_2N$ 。無色の結晶で、融点154—156度。水、アルコール、エーテルにとける。モル比ネから合成によって得られ、鎮痛作用はモル比ネより劣るが、副作用や習慣性が少なく、鎮痛、呼吸鎮静剤としてすぐれる。

ゴディンディエム *Ngô Đình Diem* 1901—63 南ベトナムの政治家。キリスト教徒で、1954年、亡命先のアメリカ合衆国から帰国して首相となり、翌55年の国民投票でバオダイ帝を破って元首となった。同年10月、ベトナム共和国憲法にもとづき大統領に就任。一族による独裁を開始し、仏教、その他の新興宗教を弾圧するいっぽう、合衆国の支援もあって徹底した反共政策をおこなった。63年のクーデターで逮捕、殺害された。

ゴードスベルクかいだん — 会談 1938年9月22—23日、イギリス首相チェンバレンとドイツ総統ヒトラーがライン河畔のゴードスベルクで会った。スデーテン領有をめぐる会談。同日15日のベルヒスガースデン会談につづくもので、スデーテンのドイツへの帰属については合意したものの、その具体的実行方法で意見が対立し、決着は9月29—30日のミンヘン会議でもちこされた。

こてんがくは 古典学 18—19世紀の産業革命時代のイギリスで形成された、近代経済学の基礎を築いた学派。マルクスが、新しい見地に立ったみずから経済学と区



ゴティエ *Théophile Gautier* 1811—72 フランスの詩人、小説家、批評家(写真)。南フランスのタルブに生まれる。1814年、家族とともにパリに出た。はじめ画家を志し、リウのアトリエに入りましたが、まもなく、当時パリで台頭してきた文学運動の影響を受け、ユゴーを師とし、ロマン派の詩人になった。30年におこなったユゴーの演劇「エルネ」初演会をめぐって「エルネ事件」では、ロマン派の先頭に立ち、古典派と論争。大活躍した。戯作詩4編をおもたぬ処女詩集(30)や、つづき詩集

「アルベルナイス」(32)には、彼のロマン派に対する批判が示されている。35年には、長編小説「モーバン嬢」を発表した。この小説は17世紀に実在したフランスの歌手に題材を得たものであったが、彼はこの小説の序で「ほんとうに美しいものは、何の世にも見えないものである」と宣言し、ブルジョア的道徳を批判するとともに、唯美的芸術を主張した。その後多様な文学活動を展開し、中世や16世紀の作家の評伝「レ・クロテス」(33)、詩集「七宝螺貝(らでん貝)」(52)などを発表したと



くに「七宝螺貝集」は彼の代表的詩集とされている。小説には、「ミラノ物語」(56)や「キャプテン・フラス」(63)があるが、後者はスクリンの「滑稽物語」に模範をうけて書かれたもので、評判になった。この作品のなかで彼は、19世紀の民衆たちのみじめな生活を描くのに、スペインのバレエ(舞)小説の伝統と、ロマン主義の理想とを源流・体ものとして実現した。写真①は、口紅の版画。②は、17世紀の印刷物から、いずれもコンメディア・デルテの登場人物。

別するため、批判的に命名したにはじまるが、経済学史の通説では、アダム・スミスからリカード、マルサスを経て、S. ミルにいたる体系をさす。古典学派のもっとも大きな特徴は、それまで絶対主義のなかで育った重商主義的経済学をもつ自然法的色彩を併せ、新しく自由主義的観点から、自由競争の概念を導入したことである。また、経済学から自然科学的な思考法を導入して、経済活動を生産、分配、消費の3つの面に分け、あるいは、主体として地主、資本家、労働者の3分類をおこなうなど、理論の整理と体系化を進めた。産業革命の進行とともに、〈貧困〉がイギリス経済学の大きな課題となっていた。労働価値説をとる古典学派の代表的存在とされリカードは、食糧の需要によって限界耕作がさまりによって地代がさまり、労働者の利益はその収獲量によって決定される、という地代論を展開し、マルサスは、貧困は過剰人口によるとして人口の増加抑制を説き、またフランスのセーは供給が需要を生み出すという〈セーの法則〉を打ち立てたが、マルクスやケインズの学説はこれらを批判している。

こてんけき 古典劇 広義には、古代ギリシア・ローマ劇からイブセリまでのすべての演劇をいう。近代劇の対立概念として用いられるが、狭義には、16～18世紀ヨーロッパにおける古典主義演劇をさし、ロマン主義演劇に対称される。また、古代ギリシア・ローマ劇のみをさす場合もあり、定義上、一定しない。ルネサンス期のイタリアでは、とくに古代ギリシア劇を演劇上の範として、

これに準拠しようとする演劇傾向が流行し、しだいに全ヨーロッパにひろがった。とくにフランスでは、ジヨードの「クレオパトラ」(1552)を最初の上演として、スカリジェロ、ガルベニなどによってアリストテレス評学の法則が唱導され、17世紀後半、ラシーヌ、モリエール、コルネーユ、ボヴォーが、三一致とジャンルルル劇の法則にもとづくフランス古典劇を確立した。古典主義の語は、のちにホルテメルがこれらの劇作家たちの作品にみられる文学理念に対してふたたび名づけた。フランスでも、B. ジョントン、ドイデン、ウィットナーなどの劇作家があらわれ、ドイツでも、フランス古典主義演劇の影響のもとに、レッシング、シー、ゲーテなどが、国民演劇としての新古典主義演劇を推進した。イギリスのシェクスピアの作品もこの期に属するが、とくにギリシア古典の影響がみられないため、古典劇ないし古典主義演劇とはいわない。18世紀後半、この反動としてロマン主義演劇がおり、さらに近代劇へとひろがった。

こてんけき — 写真項目 —

こてんけき おんがく 古典音楽 一般に、18世紀後半から19世紀初頭にかけて、ウィーンを中心に活躍したハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの3人の作曲家によって代表される時代の音楽をいい、ウィーン古典派という。しかし、17～18世紀の音楽史の範囲でイタリア音楽をいう場合もあり、また、同時期のルイ14世下のフラン

ス音楽の隆盛をさすこともあって、定義は一定しない。18世紀のウィーンでは、歴代の作曲家の庇護のもとに各種の音楽が発達し、シュターミッツ、モン、ワグネル、シュタルプアーなど、いわゆる〈前古典派〉の作曲家によって、バロック様式をめじた新しい様式が確立された。これらを用いて、まずハイドンが交響曲や弦楽四重奏曲などで古典的な音楽法を確立、とくにソナタ形式、ロンド形式などの基本的楽式を発達した。つづいて、モーツァルトがあらゆる分野の楽曲に古典的均衡と調和の美しさを付与し、さらにベートーヴェンによって、古典的様式の完成をみるとともに、ロマン派の道がひらかれた。古典派音楽は、文芸上の古典主義に反映し、音楽を教養および貴族階級の手から解放して、ひろく市民階級のものとするなど、社会的意義も大きい。

コート coat (英) 狭義には男子服の上衣をさすが、一般には、もっとも外側に着用する衣類の総称として用いられる。防寒、防雨、防風、さらには装飾のために着用し、用途によって材質も、毛織物、毛皮、本絹からビニルまでさまざまである。コートの着用は、古代西アジア人からととも古く、長めの丈で前あきの表着の伝統は現在までつづいている。古代ギリシアやローマではコートは装飾用であった。中世ヨーロッパの上流階級ではサー・コートが流行し、男性用は腰くわいまでの丈であったが、女性にはひきずるような長いのを着た。ルイ14世時代に代表的な男子服となったジュストール・コートは、フロック コートの原型となり、また、18世紀



こてんけき 古典主義 広義には、古代ギリシア・ローマの古典作品を規範とするあらゆる芸術傾向をいうが、狭義には、17～18世紀にヨーロッパで主流をなした芸術様式をさし、ロマン主義の対立概念として用いられる。英語のクラシズム (古典主義) の語は、古代ローマにおいて市民階級中の〈最上級〉を意味するクラシス語のクラシスに由来し、転じて〈模範的〉〈典型的〉の意となり、そこから芸術の最高形態をさす名称として一般化した。また、〈古典〉あるいは〈古典的〉という場合には、

各芸術の歴史的発展段階における最終的な定常期の作品または様式をさすことが多く、古典主義とは、概念上、微妙な差異がある。古典主義の思想が特定の歴史的現象としてあらわれたのはルネサンス以降で、すなわち、古典主義の発達による個人の自覚や自らの思想の普及とともに、古代ギリシア・ローマへの回帰現象が支配的となり、しだいに芸術全般の主題となった。ヨーロッパ全土に浸透するようになった。文字では、マルセル14世紀代のフランスで開花し、モリエール、ラシーヌ、コルネ

ーユ、ボヴォー、ラ・フォンテーヌなどが、その頂点を築いた。ことに、ボヴォーの「詩学」は古典主義の教科書ともされ、フランスのみならず、全ヨーロッパにおける文芸上の最高規範として、強い影響をおぼした。いっぽう、近代合理精神が発達したイギリスにおいても、ドイデン、ボープ、ベン・ジョンソンなどがこれに準拠し、ドイツでは、レッシング、シー、ゲーテ、クロプシュトックなどが、これを文学的出発点とした。その他の国々でも、それぞれの国民性にもとづく古典主義文学

には婦人用のゆったりとしたフットー・サックが流行した。今日のコート類は婦人用が多様な形態をもつてに対して、男性用のデザインには大きな変化はない。

ゴドイ Manuel de Godoy y Alvarez de Faria 1767～1851 スペインの政治家。近衛将校から、カルロス4世の殊遇をうけ、また王妃マリア・ルイサの愛人でもあったことから、1791年、アルカディア公に任じられ、92年には宰相となった。93～95年にはフランス革命政府と戦い、敗れてバゼル条約を結び、〈平和公〉と称された。フランスの手強により一時引退したが、1801年、陸海軍の指揮権を掌握して復讐し、ナポレオンと同盟してイギリスと交戦。5年にはトラファルガー海戦でスペイン艦隊を失った。アラゴンフェの暴動によって政治生命を断たれ、亡命先のパリで晩年を送った。

コードウェル Christopher Caudwell 1907～37 イギリスの小説家。本名はセン・ジョン・スプリング。集団の感情を表現する方法として合唱詩に関心をもち、政治的メッセージに投じた。史的唯物論を基礎とした『幻夢と現実』(1937)を発表して高く評価されたが、スペイン市民戦争に共産派として参加して戦死。ほかに死後行われた『文化の終焉』(1938)などがある。

こどうげん 西漢末 生没年不詳 8世紀の中国。唐代の画家。字は道子。河内省陽夏の人で、庶民として貧困のうちに育ったが、その画才が玄宗に認められ、宮廷画

家となった。画題は、人物、鬼神、仏像から、山水、草花鳥獸、樓閣などにわたってひろく、変化に富んだ画面の構成力にすぐれていた。とくに中年からは創造にあふれる速度のある遑筆法を開拓して筆墨に取り組み、また、透視画法を導入した現実感のある新鮮な山水画を描いて兩派と称された。

ゴート語 語 インド・ヨーロッパ語族ゲルマン語派の東ゲルマン語に属する言語。現在は死語になっているが、4世紀に西ゴート族のウルフィングがゴート語に翻訳した聖書の写本断片がいくつか現存し、貴重な史料になっている。ギリシア文字を基礎に、ラテン文字、ルン文字をとり入れた、27の固有のゴート文字が用いられており、言語形態はゲルマン祖語にもっと近いといわれている。これらの断片著者中、半皮紙に金・銀字で書かれた『銀字書』と呼ばれる福音書が有名。

ことぎ 琴座 Iyra (学) ほくちよう座とヘルクレス座のあいだに位置する北天の星座。主星は0.0等のベガで、7月の織女星として有名。ギリシア神話では、アポロンが愛人オルフェウスに寄贈した黄金の〈たてごと〉とされている。

コトシイ・セイ 遺跡 南アメリカ西部、ペルー中央部のアンデス山中にある古代遺跡。ケチュア語で「石の小山」を意味するコトシイは、ワヌコ山近郊のアソシン川支流河内にあり、1960～69年に東京大学の学術調査

団によって発掘された。この遺跡は、前2000～前200年になされた後時代からの石造建築物が重なったもので、とくに地下層からは無石器文化時代に属する神様がみられ、アンデス文明の起源を探る重要な手がかりとされる。

ゴート人 人 ゲルマン系民族の一部族。紀元前1世紀ころ、スカンディナヴィア半島に住んだ。紀元前後の第1次民族移動、および2～3世紀以後ゲルマン民族西進の影響を受けて第2次移動におよんだ結果、造成部族大ゴート部族が成立し、東ゴート、西ゴートおよびゲビートの3部族に分かれた。3世紀後半以後、黒海北西岸、ドナウの中・下流北岸地域にそれぞれ定着するとゴート人の古代部族社会を形成、発展をとげた。また彼らの一部はローマ領小アジア、ギリシアにも侵入したが、4世紀なかばころには東ゴート王エラルリック指導のもとに全ゴート人は中部および東ヨーロッパにもその勢力を拡張した。4世紀末に、一時フン族の支配下にはいり、5世紀なかばに東ゴート王独立、493年にはイタリア半島全域を占めて東ゴート王国を建設したが、555年、ビザンチン帝国に滅ばされた。いっぽう西ゴートはフランスに追われた結果、415年イベリア半島に西ゴート王国を建て、475年にはヒスパニアの大半を領有してローマから完全に独立したが、711年、ササセンに滅ばされた。滅亡後、西ゴート族の一部はイベリア半島北西部のアストゥリアス地方に定住し、やがて近世スペイン王国出現の拠点となった。なおゲビートはゲルマン系部族再編成の過程で解体した。



が発達し、18世紀後半にかけて最盛期をもち、やがてロマン主義でもの地位をゆすった。美術では、16世紀イタリアの建築家パルディオが古典復古の先鞭をなし、ついで、17世紀フランスの画家ブーサン(写真●)『無言の女々の夜宴』が絵画における古典主義様式を確立した。18世紀にはいると多くの人材が輩出し、建築ではスワフロー、ロンドレ、スマーク、エルトマンズドルフ、シンケルンなど、彫刻ではカノーパ、トルバセセン、カルステンズなどが、きかんに活躍した。絵画では、ブー

サンの流れをひいてフランスで発達し、ダビッド、アングルをはじめ、ジロダ、ジラール、グロなどが、古典主義絵画を大成した。一般に、古典主義芸術は、理性を重んじ、秩序ある厳格な形式と、調和と均衡のとれた静謐かつ明確な表現を尊奉して、対象の典型的特質を強調することを特色とする。しかし、こうした芸術の傾向は早くからあらわれており、たとえば、カリンゲル湖の彫刻(写真●)『騎上のカール大帝をささぐる聖物』やセリツ城の八角の塔(写真●)、ジヨット(写真●)『聖フアン・エ

スコピ』部分)やドナテロなどの作品などにも、古典主義的傾向がみられる。また建築ではブルネスキのバツィカ家礼拝堂(写真●)、アルベルティのマツァッティ宮(写真●)、パラディオのウィラ・ロッキョ(写真●)、カラッジョのロッキョ・パティエとセント・ウラステス(写真●)部分、絵画では、ラファエロ(写真●)『アデルの学室』など、18世紀以降の多くの美術作品のなかにも、すでに古典主義様式の萌芽があらわれている。

コートディボワール 〔写真項目〕

ことどり(科) 等鳥 *Menuridae* (科) 鳥類スズメ目の1科。オーストラリア特産。コトドリ・アールパート・コトドリの3種がある。コトドリの頭胴長は30センチ内外であるが、尾はきわめて長く約70センチにも達する。雄では尾が特殊化し、繁殖期には、たてこたのよう立てて誇示する習性がある。また、他の鳥の声をまねるのが多く、まね歌の鳥としても有名である。

コトパキさん 山 *Cotopaxi Mt.* 南アメリカ北西部、エクエドルのアンデス山脈中にある世界最高の活火山。スペイン語ではコトパキ、標高5897メートル。キトの南約50キロにある同標高火山で、山頂は年間を通じて雪におおわれ、活動時には雪をかきとて雷岩泥流となるが、平時は水蒸気などを噴出する。1872年、ドイツ人ライプが初登頂した。

ゴドフスキー *Leopold Godowsky 1870-1938* ポーランド生まれのピアニスト。9歳でピアニストとしてデビュー。15歳でアメリカ合衆国に家族移住した。1887-90年にワシントン・サーンズに師事したのち、フィラデルフィア、シカゴ各音楽院ピアノ科教授。1909-12年にウィーン音楽院ピアノ科主任教授をつとめ、録音者、教育家として活躍した。とくにショパン弾きとして有名で、同国出身のルビンスタインとともに、その正統的解釈には定評があり、多数のレコードを残している。

ゴドフロワドブーイヨン *Godefroy de Bouillon 1060?-1100* フランスの貴族。ロレーヌ大公としてブーイヨンに居城し、1096-99年の第1回十字軍を指揮してエルサレムを征服し、王となったが、王号ははかって「聖皇の保護者」と称した。タツツの「解放されたエルサレム」は、彼を主人公にした作品である。

こどもじゅうじけん 子供十字軍 十字軍時代を通じてヨーロッパ各地で発生した民衆十字軍の一種。聖ビエールの説教や神の啓示を受けた少年指導者の純粋な宗教的熱狂に賛成された未成年男女を中心に、貧民や弱病など社会の最下層民を加えて金でたれた伝説的な聖地奪回計画。集団ヒステリーの様相を呈した当時の社会問題であったが、少数の年代記者が記述しているだけで、詳細を知ることはむずかしい。著名な1218年の十字軍は、フランスのロワール川中流のクロワツ村の牧童エティエンヌと、ドイツのケルンの少年ニコラスの全てである。数千人にふくれあがった十字軍は奇跡を信しながらマルセイユやジェノバまで行進したが、彼らの多くは海難死し、生き残った者は奴隷として売られたという。

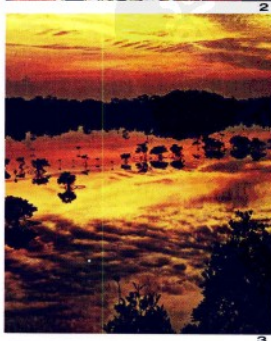
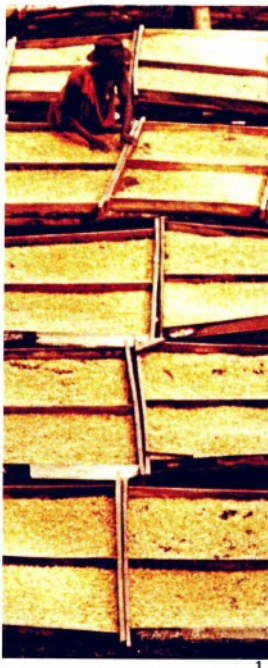
ゴトランドとう 島 *Gotland I.* スカンディナヴィア半島の南東、バルト海にあるスウェーデン領の島。面積3023平方キロ、人口5万4000(1970)。付近の島々をあわせて11群を構成する。地質学上のゴトランド紀の遺跡となつた島で、最高83メートルの起伏のない石灰岩台地状を示し、高緯度のわりに温暖な気候である。都

史的には、すでに石器時代の遺跡がみられるほど古く、12世紀にドイツ人が定住してから約140年、1645年にスウェーデン領に帰属した。主産業は農牧業、石灰石・大理石採掘および観光業である。主要都市ビースビー。

コトリヤギレフスキー *Ivan Petrovich Kholovskii 1769-1838* ウクライナの小説家、劇作家。近代ウクライナ文学の創始者。ウクライナ語による最初の文学的著作「愛したエティータ」(1798)を発表した。ほかに、喜劇「ナターカ・ボルトツカ」(1819)を書き、今日でも上演されている。

コトル *Kotor* ユーゴスラビア南西部、モンテネグロ社会主義共和国の港市。人口約5000。ティエーグラードの西約40キロ、ロフチェン山をひかめたコトル湾内天然の良港をもつ町で、現在の町は、1382年に建設された。中世には有名な建築家や船員が輩出したことでも知られており、石質の市街にはローマ・カトリック教会の大聖堂をはじめ、中世建築が美しいたたずまいをみせている。

ゴドルフィン *Sidney Godolphin 1645-1712* イギリスの政治家。チャールズ2世の寵を得て1668年、議院にはいり、枢密顧問官、国務相を歴任して男爵となり、さらにジェームズ2世、ウィリアム3世のもとで大蔵委員、大蔵総裁に任ぜられた。アン女王時代にも大蔵総裁をつとめ、スペイン継承戦争中は国政の中心的役割を果たし、1706年には伯爵に叙された。



コートディボワール *Côte d'Ivoire* 西アフリカのギニア湾に面する共和国で、正式名称はコート・アボワール共和国。面積32万2463平方キロ、人口1477万(1974)。公用語フランス語。通貨フラン(=1000シエム)首都アビジャン。国土の形は正方形に近く、北でオート・ボルクとマリ、東でガーナ、西でギニアとリベリアに国境を接し、南は大西洋に面する。地形は、北から南部へゆるやかに傾斜する高原となつていて、海岸部には、海岸平野と潟湖地形がある(写真①)。北部が熱帯サバン

ナであるほかは、全土が降水量の多い熱帯雨林地帯となつていて、住民は、おもにスーダン系の諸部族で、70以上の言語があり、多くの種族に分かれている。15世紀にポルトガル人が来航したときには、海岸部に部族国家があり、北部にもイスラーム教の部族国家があった。同地では、これらの国家とヨーロッパ人ととの貿易取引が市こなわれ、コート・ディボワール(象牙海岸)という名称も、これに由来している。19世紀のなかばごろ、フランスが同地域の征服にのりだし、1890年代にはフランス領

西アフリカに編入した。第2次世界大戦後、独立運動が高まり、しだいに自治権を獲得して1960年に独立したが、旧宗主国フランスとは、経済や政治の面で親密な関係にある。鉄鉱石や石油なども、比較的よく掘つており、工業化の進展もみられるが、人口の75パーセントは文盲といわれ、行政地位の部族も多い(写真②)。経済は、コーヒー(写真③)、ココア、ココナツ(写真④)、木材、パイナップルなどの商品作物栽培に依存しており、鉱業の開発は進んでいない。

コドレアヌ Cornelin Zelea Codreanu 1899~1938
ルーマニアの政治家。ファシスト反ユダヤ主義者。鉄衛団を組織して反共・反ユダヤ運動を進めたが、1933年、政府によって解散させられた。鉄衛団・祖国のためにを組織して活動をつづけた。38年、独裁確立のため全政変を断行させた。39年2月によって逮捕され、10年の禁固刑に処せられたが、逃がをはかり、ジブラルタルで射殺された。

ことわざ — [写真項目]

コットン Aimé Auguste Cotton 1869~1951 フランスの物理学者。ソルボンヌ大学の教授をつとめ、同大学物理学研究所長となる。超光学的研究をおこなう。ムンとともにも、光が複屈折場内の有機液体中を縦横方向に垂直に通過するとき複屈折を生じる「コットン・ムン効果」を発見した。

ゴードン Charles George Gordon 1833~85 イギリスの軍人。1852年、陸軍にはいり、クリミア戦争などに従軍した。60年、中国に派遣されて太平天国の乱を平定して「チャタニース・ゴードン」と呼ばれた。スーダン総督などを歴任後、84年にマフディエの乱を鎮定するため、再度スーダンに派遣され、ハルトームにはいったところを包囲され、300余日にわたる籠城のうえ、戦死した。このことは、グラッドストーン内閣をして援軍派遣の責により総辞職させるほどの世論をわきた。

ことわざ — 粉白粉 粉米状のおしろい。二酸化チタン。重鉛、タルなどの原料を微細な粒子に粉砕したもので、薄化粧用のものも一般的なおしろいであるが、油性のおしろいの普及した現在では仕上用とされる。

コナクリ Conakry アフリカ西部、ギニアの首都。人口119万7000(1967)。本土のカルメル半島と接して北に、フランス植民地時代から海港として栄え、1958年に独立ギニアの首都となった。近隣の半島での鉄鉱石、イス島のボーキサイト採掘を機に工業化が進み、近年では、内陸カンカンまでの鉄道開通により、貿易と鉱業用燃料の輸送に占めていく。

コナハト Connacht アイルランド北西部の地方。面積約1万7000平方キロ。人口40万2000(1966)。シャンロン川以西、北と西で大西洋にのぞみ、ゴールウェイ、スライゴなど5市からなる。住民は、古代に入植したケルト人の子孫が大部分を占め、複雑な海岸線のつくる良港を基として漁業が中心に従事するが、経済活動は国内でもっとも遅れている。主要都市はゴールウェイ。

コナク・コナク — 基塔 インドのオリッサ州コナクにあるヒンドゥー教寺院の遺構。13世紀かかばに建立されたもので、太陽神がまつられていた。現存するものは、30メートル四方の拝殿だけであるが、あま、獅子、人物などの精巧な彫刻をほどこし、基礎部分に車輪を付して、拝殿を太陽神の車に模したものとみこな建築である。

コナント Charles Arthur Conant 1861~1915 アメリカ合衆国の銀行家、経済学者。マサチューセッツ州に生まれ、ボストンやニューヨークの新聞に経済評論を掲載した。1891年、『近代貨幣銀行史』(1896)を著し、合衆国における中央銀行制度の必要性を主張して注目された。また、1901年から1911年、二カラヴァ、キューバなどの通貨問題を研究し、10、11年のハバグ国際会議では貨幣の統一の制定などに貢献した。

コナント James Bryant Conant 1893~ アメリカ合衆国の化学者。マサチューセッツ州の生まれ。ハーバード大学で化学を学び、1928年、同大学教授。33年以後約20年間同大学長をつとめる。第2次世界大戦中国防科学研究所にすきり、原子爆弾の製造にあつては、その計画を指導する立場にあった。科学的委員会を組織し、政府などとも協議する。1947年、科学教育にも功績を残した。著書『有機化学』(28)。

ゴニオメーター goniometer (英) 広義に用いられることは、一般に角度の測定に用いられる装置の総称。すなわち、測角器または角度計をさす。装置の形式と名称は、測定対象の違いによって異なる。分度器は、平面角の測定に用いられる。0~60度の目盛をついた円盤と中心部とを連結する固定棒とからなる分度器は、2つの星のあいだの角距離や太陽などの高度を求めるのに用いられる。経緯儀は、小望遠鏡を水平軸および垂直軸のまわりに回転するように取り付けられたもので、対象の高度および方



ことわざ 語 古くから言い伝えられてきた諺や風刺などを内容とする短い文句。諺類または俗諺ともいう。国、民族、環境、習慣によって、諺の表現形式や主題は多岐であるが、内容はすべての民族に共通するものや類似したものが多い。インド、中国、ユダヤでは、古くから書かれた表現の諺が伝承され、また、ギリシア・ローマの文獻にも諺の類が数多くみられる。中世以降は諺集が普及するいっぽう、民間伝承ともいわれる16世紀には諺をテーマにした絵画が多く描かれている。写真●は、

「フューゲル曲」の「諺」。現代においても、諺は人類の普遍的な遺産としてつくられてきました。たとえばギリシアでは「諺は神の知恵である」とされている。諺の特徴は、語句が簡潔、簡潔、具体的で明確な表現にあり、多くは比喩的であり、直観や経験に基づく諺言表現になっている。また、対称形式、対比、逆説、逆説の諺も多くみられる。常言または俗語ともいわれる中国の諺は、数字や句の対称が好まれ、農業や気象に関するもの、官能や地主を批判したものが多い。いっぽう、ヨーロッパではキリス

ト教の啓蒙によって、聖書の章句が行為の規範を示す格言として多く用いられている。諺を機能によって分類すると、攻撃的諺、経験的諺、教訓的諺、道徳的諺の4種になるが、いくつかの機能を兼ね備えている諺も多い。攻撃的諺は相手の弱点を露くして優位を誇るもの、経験的諺は経験をもとに得た知識を伝えているもの、教訓的諺はいつか悟る、金言といわれるものでもある。そして道徳的諺は、諺の持つ美しさと技巧だけが発達して内容が失われたものをさす。

位角を測定する。狭義のゴニオメーターは、2つの電圧同軸素子に電圧と電流を加えたとき、それに直結した第3の同軸素子の回転角を求め、その三角関数に比例した電圧または電流をとり出す装置。今日では、非常に精度の高い反射ゴニオメーターが使われている。

コニツ Lee Konitz 1927— アメリカ合衆国のアルト・サクソフ奏者。レニ・トリスナーの主張に共鳴し、独自のクールの演奏に個性を発揮した。また、マイルス・デヴィス、スタン・ゲットンとも共演した。1954年には独自のオーケストラを編成している。

コニヤック 写真目録

コニヤック Cognac フランス南西部、シャラント県の町。人口12万5000(1968)。コニヤック産地を流れるシャント川沿いの町で、コニヤックの名で知られるブランデーの名産地である。ペネディット派の醸造会が町の起源といわれ、16世紀後半のユグノー戦争以来、新教徒の中心地だ。1685年のナント勅令の廃止後はふるわなかつたが、18世紀後半からはブランデー醸造とその関連産業でさかっている。12世紀の聖堂がある。

コニクスロー Gillis van Conixloo 1544?—1607 フランドルの画家。P.ファン・アールストの弟子。フランス、ドイツに旅行し、多くの風景画を描いた。マニエリスム、街景派に属し、「風景画の詩人」とも呼ばれた。



コニヤック cognac (仏) フランスのコニヤック地方で生産されるブランデー。正式には、オードビー・ド・コニヤック(コニヤック産の生命の水)といふ。コニヤック地方では、古くからぶどう酒がつくられていたが、その品質は、ポルドー付近のものにくらべて劣悪であった。ところが、1630年ころ、オランダ人が発明したといわれるぶどう酒の蒸留法が伝えられてから、コニヤック地方は、一躍、世界最高級のコニヤックの産地となった。現在では、特許によって、フランスのコニヤ

「メダス」(ドレスデン美術館蔵)。

こにんぐみ 五人組 19世紀後半、ロシアの5人の作曲家がつくったグループの通称。(方強い仲間)とも呼ばれる。メンバーはバラキレフ、ムソルグスキー、キュート、リムスキー・コルサコフ、ボロディンの5人で、ペテルブルクを中心に活動。すべて民族出身で、非職業的な音楽家であったのを特徴とする。格林カやドブニョフ・ムジスキーのあとを継いで、ロシア国民音楽の樹立につくし、ロシア音楽をはじめ、近代フランス、ドイツ音楽にも多大な影響をおよぼした。

コネティカット Connecticut アメリカ合衆国北東部、ニューイングランド地方の州。面積1万2933平方キロ。人口303万2200(1970)。州都ハートフォード。東でロードアイランド、北でマサチューセッツ、西でニューヨークの各州に接し、南はロングアイランド湾にのぞむ。地勢は、肥沃なコネティカット川下流域の低地を中央に、永食作用によって湖沼の多いやせた丘陵地が東西にひろがり、海岸線は出入りが多く良港をなす。独立13州の1つで、1633年に植民が開始され、39年には世界最初といわれる憲法成立(コネティカット基本法)が制定された。農業は、タバコや園芸栽培、酪農、養蠶などがおこなわれる。コネティカット低地を除いて一般に不振であり、入植当初からさかんな商工業のうち、工業は全国の高水準を示し、航空機、電気機器など精密工業がさかんである。海岸ではカキ養殖が主であるが、グロトンには潜水

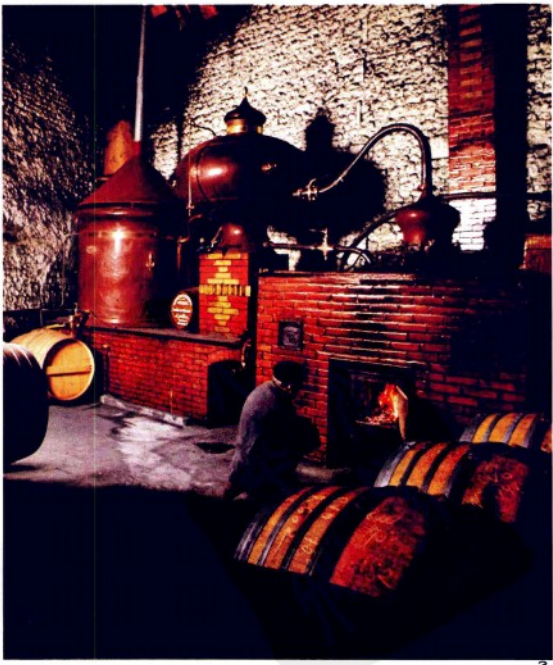
艦基地がある。主要都市はハートフォード、ブリッジポート、ニューヘブレンなど。

コネフ Ivan Stepanovich Konev 1897— ソビエト連邦の軍人、元帥。1918年に入軍し、フルゼビッチ軍大学を卒業後、第2次世界大戦で、カリーニン、ステッパ、ウクライナなどの軍を指揮し、45年、ジェーコフとともにベルリンをおとした。戦後、オーストリア占領軍司令官、国防相第1代理、陸軍総司令官などを歴任し、55—60年にはワルシャワ条約統一軍総司令官をつとめた。

コネリー Marcus Cook "Marc" Connelly 1890— アメリカ合衆国の劇作家。コフマンとの合作が多く、「馬上の忠臣」(1924)などが知られている。いっぽう、単独で書いた「緑の牧場」(30)は、ピューリッツァー賞を受賞し、6年間のロングランをつづけた。

コネル Katharine Cornell 1898—1974 アメリカ合衆国の女優。パフアローの興行師の娘としてベルリンに生まれ、1916年、ワシントン・スカーズ劇団の「フンディー(武士道)」で初舞台を踏んだ。21年に「離婚証書」の舞台で大成功をおさめ、同年にブロードウェイの劇作者マククリンティックと結婚。以来、夫の企画演出のものにも演技を示し、ヘーズとならぶ名女優とされた。代表舞台「カンディダ」「聖女ジョーン」「長子」など。

このえふみまろ 近衛文麿 1891—1945 日本の政治家、



く地方で生産されるブランデーだけに、「コニヤック」の名称をつけることが認められている。ちなみにコニヤック地方のブドウ園。コニヤックの製造は、酸味の強い低級ぶどう酒を、アルコール度が60—70度くらいになるまで蒸留する。写真●田舎の蒸留場。蒸留されたぶどう酒は、木製の樽に詰められ、冷暗所に貯蔵されて熟成され、成分が微妙な化学変化を遂げて、黄褐色の色と独特の芳香をもつコニヤックとなる(写真●)。この樽の原料には、リムーゲン地方でとれる樽材が適し、貯蔵期

間は、15—40年かけたものがもっともよい風味をもつといわれる。しかし、貯蔵が10年におよぶと、アルコール分や水分の半量が高発してしまふため、実際には、長年寝かせた古酒に、新しい酒をブレンドしたびん品が販売され、生一本のコニヤックはほとんど販売していない。コニヤックの味わいは、ブランデー・グラスに少量をそそぎ、手のひらで温めて香り味わいながら、すこしずつ口にふくむのがよく、水やソーダ水などで割って飲むことは邪道とされている。

このは

東京生まれ。1933年、貴族院議長、37年、第1次近衛内閣を組閣。同年、日中戦争が勃発し、彼は戦争の拡大防止につとめたが軍部の強硬論におしきられ、以後、この状態は第2次世界大戦終結までつづいた。40年の第2次内閣では新体制運動を指導、41年の第3次内閣では東条陸相と対立した。戦犯に指名されて自殺。

このはえび(科) Nebaliidae (学) 甲殻類コナエビ目の1科。世界中の海洋に分布するが、10種たらずが知られるのみである。一般に1センチ内外の小形種で、最後の体節に尾叉という単純な脚をもつ点でコナエビ類に似ている。水深数メートルの深場にすむものもあるが、湧く浅海の浅底にすむ。両側によく泳ぐ。体を横にしたり、あちむけにしたりして泳ぐ習性がある。

このはくろ(科) Ous asps (学) 鳥類クワウ科の1種。アジア、ヨーロッパの中部部に分布する。全長約20センチで、クワウのなかでは小形である。背面は褐色、腹面は淡褐色、全体に黒褐色の縦線がある。森林にすみ、フッパン、フッパンとよく通る声で鳴くので、その声からフッポウソウとして知られているが、本来のフッポウソウはまったく別種である。

このはちょう Kalima inachus (学) 昆虫類タテハチョウ科のチョウ。沖縄、台湾島、中国中部からインド北部にかけて分布する。開張約7センチの大型のチョウで、前翅の先端、後翅の後端がとがる。翅の上面は光沢

のある青紫色で、前翅には、だいたい色の斜帯が走る。下面は淡青色で、色も斑紋も枯れ葉によく似るので有名年に数回発生し、成虫は春から秋にかけてみられる。幼虫はオキナクススミソウなどを食べる。

このはむし(科) 木の葉虫 Phyllidae (学) 昆虫類ナフシ目の1科。主としてインドからニューギニアにかけての熱帯地方に分布する。全体に緑色、扁平で、脚には葉状の装飾片があり、広葉樹の木の葉にまわめてよく似る。この姿は、外敵に対する防衛手段の役目を果たす擬態の代表例として有名である。

コナリー Cyril Vernon Connolly 1903~ イギリスの批評家。オックスフォード大学で歴史を学んだのち、文芸評論の筆をとり、1940年にスペンサーと月刊誌「ホッパソン」を創刊、豊かな学識と特異な文体によって、文壇の集宝となった。のち、政治的立場からスペンサーと別れ、50年に脱刊。代表作「不安な登場」(44~45)は、パリスの筆名で、ヨーロッパ文明の破壊の予感を、内的告白の形式を借りて記した批評文学の傑作。

コナン Conan 444?ac ~390ac アテタイの兵法家。ペロポネッソス戦争末期の前405年、スパルタのリュサンドロスと戦って敗れたが、キプロスに逃れ、前394年にペルシアに協力してスパルタ軍をネイグスに破った。

ごは 五穀 中国、春秋時代に実権をにぎっていた人

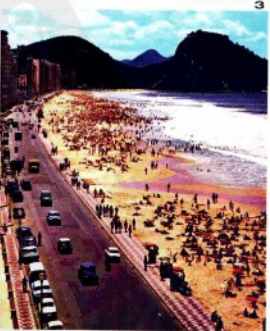
の諸侯の盟主。当時、実質的に支配力を失っていた周王を置きながら、諸侯は盟約を結び、その盟主は覇者と呼ばれて、軍事力と法との間で綱を執っていた。「苟子(じゅんし)」によれば、西の執事、晋の文公、楚の莊王、魯の宣公(はくこう)、宋の襄公などをあげて説き及ぼし、また、かならずしも特定の5人の覇者を意味するものでなく、互角の影響があらうよう呼ばれたともいわれる。

ごは 呉淞 中国、明代に栄えた山水の流派。明代前半には南宋画院の系統をつく山水・花鳥画が、浙江、福建などから沈周(せいちゅう)の両家によって描かれていたが、15世紀前後に江蘇から沈周(ちんしゅう)、文徵明(ぶんしめい)がでて、元末の四大家の画風をつく南宗(なんしゅう)画系は文の文人画が注目を集めるようになり、つづいて嘉靖年間には江蘇は雲南の中心地となって、唐寅(とういん)、仇英、王冕らの文人が輩出した。江蘇がかつての呉国であったことから、彼らは呉派と呼ばれた。

ゴッパ Charles Albert Gabat 1834~1914 スイスの政治家。1880年以降、代議士として活躍するが、1900年平和運動に献身し、1902年、デュマンとともにノーベル平和賞を受賞した。

ゴバカバナー 写真項目

こはく 琥珀 植物の樹脂が地中にうすめられて化石した



ゴバカバナー Copacabana ブラジルの都市リオ・デ・ジャネイロにある海浜観光地。アメリカ合衆国(現のマイアミ、メキシコのアカプルコ)などとなら同程度の海浜の保養地。海水浴場、ホテル、カジノなどの施設が整っている。リオ・デ・ジャネイロは、大西洋の入江のグアパツ湾の港湾都市として発達し、ゴバカバナーのある大西側の山麓地区は市民の保養地として発展した。1930年代までは、都市近郊の貧しい工業地域であったが、都市部と山麓地区とのあいだの丘陵にトンネルが

できて、観光開発が進み、とくに第2次世界大戦後、1年を過ぎて暖かい気候と美しい風景を生かして、世界から観光客を集めるようになった。今日のゴバカバナー海岸には、高級ホテルやマンションが建ちならび、砂浜そとに黒白のモザイク模様の手歩道がつくられている(写真④⑤⑥)。海岸は遊歩道としており、砂浜の全域が一般に開放されて、市民の海水浴場としてにぎわっている。また、表通りからはいりこんだ地区は、バー、クラブなどのある歓楽街で、人口の密集する下町につ

いでいる。内陸りのイパネマ、レブロン海岸も高級保養地として有名で、競馬場や植物園が設けられている。東端りはレブロンからレマヘンへついでおり、潮の干の退潮道からは美しい海岸線を一望のもとにおさめることができる。とくに、春明けと夕暮れの眺望がすばらしいといわれる。ほか、レマヘン、グアパツ湾の入口にそそりたパン・デ・アスカル(砂糖パン)の山の丘や、市の背後にそびえるコルコバード山の大キリスト像などが、有名な景観である。

たもの。純粋な琥珀の化学成分は $C_{10}H_{16}O_2$ で、ふつう琥珀酸を数パーセント含む。非結晶質で柔らかく、断面は貝殻状を示す。硬度は2~2.5、比重は1前後。アルコール、エーテルなどの有機溶剤に可溶。乾いた布でこすれば静電気を帯びる。外観は黄色で、赤みあるいは白みがかかることもある。透明から半透明で、脂肪光沢をもつ。バルト海沿岸に多く産し、その美しさと希少性で、古くから装飾品として珍重されてきた。今日では、電気的絶縁材として用いられる。

こばち (上科) *Chalcidoidea* (学) 昆虫類目群の1上科。世界にひろく分布する寄生バチの1群で、ハチのなかではもっとも種類が多い。ふつう、体長2~3ミリ以下の小形種で、他の昆虫の卵や幼虫に寄生し、大抵として農業上有益な役割をもつものが少なくない。ルビアカドリトビコバチは、かんすう類に害を与えるルビアカドリトビコバチの天敵として有名で、日本から海外のかんすう類にも移入され、天敵効果を発揮している。

コハノフスキ Jan Kochanowski 1530~84 ポーランドの詩人。繊細で感情的な表現に富む詩を多く書き、レイヒとともにポーランド文学の黄金時代を築いた。代表作は「サティア」(1563)、「ギリシア使節の辞去」(164)、「風刺詩集」(164)、「後集」(160)など。

こばやし 小林一茶 1763~1827 日本の俳人。本名は小林信之。51歳のときに鹿半の館(長野県)に居

を構えるまで、悲憤な流浪生活を送り、その体験のなかから伝統的な風情観をこえた「茶調」と呼ばれる俳風を確立した。晩年にも不幸に見舞われ、自虐と諷刺の入り混じった多数の秀句を残した。総数2万句をこえ、「父の終焉日記」(1801)、「七番日記」(10~18)、「俳書」(12)「おらが春」(19)のほか、多数の紀行、随筆、日記、雑録などがある。

こばやしき 小林多喜二 1903~33 日本の小説家。秋田県生まれ。小樽高商在学中から志賀直哉、ドストエフスキーに傾倒。卒業後に社会主義思想に接近。1928年にドキュメント小説「一九二八年三月十五日」で文壇に登場した。以後、革命運動に従事しながら「蟹工船」(29)、「不在地上」(29)などの力作を発表。プロレタリア作家としての地位を確立した。31年に共産党に入党、転移期の人々」(31~32)、「兎生者」(33)を書いたが、街頭運動中に逮捕され、拷問によって自殺された。

こばやしお 小林秀雄 1902~ 日本の文芸評論家。東京に生まれ。東京大学弘文科を卒業。1929年に雑誌「改造」の懸賞文芸評論で連作「様々な意見」で文壇に登場して以来、文芸時評を手掛け、文壇に大きな影響を与えた。のち、第2次世界大戦の勃発前後から日本の伝統美の世界にこもり、評論集「無常と云々事」(46)を発表。戦後は、おもに歴史的文芸論を扱う。代表作は「私小説論」(35)、「ドストエフスキーの生活」(36~37)、「モーツァルト」(46)、「近代絵画」(54~58)など。

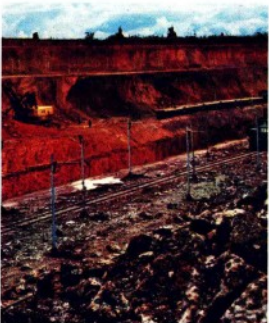
コパル copal (英) 熱帯産の植物から得られる天然樹脂。本来は、東アフリカの化石または半化石樹脂の商店名であった。マニココパルは、軟化点が低く、溶剤にけやけやすい。主要な用途はウエスの製造で、ほかに人造皮革、フッカー、電気絶縁体などに使われる。

コパルト → [写真項目]

コパー George Michael Cohan 1878~1942 アメリカ合衆国の俳優、劇作家、作曲家、劇作者。音楽家を経て、1904年に自作自演のミュージカル「小さなジョニー・ジョーンズ」で大成功をおさめ、以来、数多くのヒットミュージカルを発表。ブロードウェイの大御主とたたれた。オニールの「ああ荒野」での名演や愛国歌「オーバー・ゼア」(16)の作曲者としても有名。

コパいせき → [通説] 中央アメリカ、ホンデュラス西部山地中のマヤ古帝国の都市遺跡。5世紀後半から9世紀初頭に栄えたといわれ、ピツミッドと神殿のあるアクロポリスを中心に5つの広場がめぐっている。その文明は、階段にきざまれた象形文字や骨石、浮彫人物像などの出土品から、群を抜いてすぐれていたことが知られる。

こばんざめ(科) *Echeneidae* (学) 硬骨魚綱コバンサメ目の1科。コバンイタダキともいう。世界中の暖海に分布する。頭頂には吸盤があり、これで大形の魚類、クジラ、イルカ、ウミガメなどに吸着して生活する寄生性



コバルト Kobalt (独) 記号Co、原子番号27、原子量58.9332。周期表第8族に属する過渡金属。鉄、ニッケルとともに鉄族元素と呼ばれる。天然にはほぼ全て硫黄と化合して産出し、単体は鉄に似た灰色光沢をもつ。融点1492度、沸点3185度。比重は8.9。硬度は5.6で鉄よりやや硬い。1735年、スウェーデンの化学者ブランチンによって発見された。コバルトは、おもにひまふるは硫黄との化合物として産出し、鉱石としては、鉱石(コバルト鉱(CoAs₂)、輝コバルト鉱(CoAsS₂・CoS₂)、硫コバル



ト鉱(Co₂S₃・S)とがあり、まれに限り(人)の中にみ込まれていることもある。地殻中のコバルト含有量は、0.0023パーセントくらいである。世界のおもな産地は、コンゴ、ザンビア、モロツコなどで、これらアフリカ諸国で毎年総生産の80パーセントを占めている。コバルト鉱石の精錬は、鉱石の種類によって異なるが、ふつうは、鉱石を空中で焼いて硫化コバルトとし、これを塩酸にとかして銅や鉛などの不純物を除去したのち、水素やアルミニウム粉末で還元して金属コバルトを得る。コバル

トは、まず合金材料として高強度鋼、超硬質材料をはじめ、磁石材料である35鋼や高純度鋼などの製造に用いられる。また、酸化コバルトは、陶磁器やガラスなどの着色色素として用いられる。コバルトの人工放射性元素である⁶⁰Coは、強いγ線を放射するに用いられ、医療、金属材料の劣化検査や、植物の品種改良などに用いられる。写真②は、コンゴ、露天掘りのコバルト鉱。③は、化学工場において⁶⁰Coのγ線照射を受ける物質。④は、⁶⁰Coのγ線照射による腫瘍の治療をうける患者。

こはんし

がよく知られる。食物は寄主の排出物や食いかすで、寄主から離れて活発に泳ぎまわることもできる。代表種のコバンザメは青灰色で細長く、全長約70センチに達する。

こはんしん 湖吟詩人 イギリスのイングランド北方ウェストモアランド、ガンバーランド、ランカシャーの各県にまたがる湖水地方に住んだワーズワース、コールリッジ、サウジーの3詩人に付けられた名称。湖吟派ともいう。いずれもロマン主義復興期の詩人で、自然の素朴さなどに霊感を求め、冥想的、神秘的な詩風で知られる。1817年8月、季刊文芸誌『エディンバラ評論』が、ワーズワースを中心とする3詩人を批評して、獨逸的に用いたのにはじまり、以後、彼らに近しい作風をもつラム、ロイド、ウイリソンなどをもふくむようになった。近年では、世界的な意味は薄れ、とくにワーズワースの別名として用いられることが多い。

コーヒー → [写真項目]

ゴビさばく 一 砂漠 Gobi D. モンゴル南部から中国の内モンゴル自治区、および甘粛(カスナー)省にひろがる砂漠。周辺の山脈群によって盆地を示すモンゴル高原の中央部にあり、標高は1000~1500メートル。東西約1600キロ、南北500~1000キロである。砂漠と呼ばれるが、砂丘は少なく、大部分が植物の自生する粘土などにおおわれ、比較的降水量の多い周辺部は、古来、農牧業に利用されてきた。近年では、農牧業の集団・機械化、

ナライフ炭田やサイシャン油田の開発などが進められている。

こびとでんせつ 小人伝説 おもに民間に伝わる小さな人間の姿をした超自然的な存在を題材にした伝説。山、川などの自然現象をおこす精霊として小人を想定することは、ヨーロッパの諸民族のあいだでひろくおこなわれ、多くのニンフは小人として伝えられている。また、旅行者が未知の土地で出会った種族を誇張して小人と伝えたり、侵入民族と先住民との体格の相違が、異形に対する不安とあざけりのこもった小人伝説となることも多く、ホメロスの『イーリアス』、プリニウスの『博物誌』、スウィフトの『ガリバー旅行記』などの母体となっている。

ゴビノー Joseph Arthur de Gobineau 1816-82 フランスの小説家、外交官、外交官として南アメリカをはじめ世界各地を歩き、かわらぬ、学問研究や作家活動に注力。代表的著作『人種不平等論』(1853-55)は、非科学的な反ユダヤ主義を益舞し、ナチドイツの民族理論に源流を与えた。ほか、短編『アデライド』(69)、長編『レ・プレヤード』(74)など。

こびやくらん 五箇羅漢 仏教経典の第1回編纂(結集(けつしゅう))に参加した釈迦の弟子500人のこと。または、第4回結集のときの500人の聖者。羅漢とは阿羅漢の略称で、仏陀の教えを全うし諸学をさめ、世人の尊敬を受ける阿羅漢位の位に達した聖者の尊称であり、

供、忠實ともいう。とくに小乗系(上座)諸宗、禅宗派でひろく信仰され、すぐれた西像を残している。中国の福建省泰寧県にある五箇羅漢院、浙江省奉化県の西嶺寺、日本の大分県耶麻溪の羅漢寺、鎌倉の建長寺、東京目黒の五箇羅漢寺などに五箇羅漢像が安置されている。

コヒーラー coherer (英) 無線検波器の一種。電磁波の作用により、金属粉末がその電気抵抗を急速に減少する現象を利用した装置。1890年にフランスのブラーリがこの現象を発見した。その後、イギリスのロッジがこの現象を応用して、ガラス管内の金極管にコックなどの微粉をいれ検波器をつくった。コヒーラーと名づけた。95年、イタリアのマルコーニはコヒーラーを改良し、無線通信の受信装置に実用化した。コヒーラーは無線通信の初期に用いられたが、現在はまったく使われず、鉱石検波器、真空管などがこれにかわっている。

コピーライター copywriter (英) キャッチフレーズやローグ、説明文など広告文案(コピー)を書く人のこと。新聞、テレビ、雑誌などさまざまな媒体を通じて、広告主(スポンサー)の意図を受け手に伝える重要な役割をもっている。

こぶ 樹 樹物の体表にできた隆起物の通称。ワグダにみられるこぶは、先天的な一種の奇形で、このほか傷性のもの、腫瘍性のもの、炎症性のものなどいろいろなものがあるが、学術的に定義される用語ではない。



コーヒー coffee (英) コーヒーノキの種子を原料とする飲料。コーヒーノキは、アカネ科の常緑中高木で、約10種が知られているが、栽培種の99パーセントを占めるアラビカ種は、エチオピア高地の原産である。花は白色で芳香をもち、果実は熟すると濃紅色になり、桜桃によく似て、なかに「コーヒー豆」と呼ばれると銀の種子がふくまれる。コーヒーノキは、かなり古い時代にアラビアに伝わり、11世紀の初頭にはじめて飲料に用いられ、禁酒の律法をもつイスラム教にひろく愛される

ようになった(写真①)。その後、アラビアではこれを重要な輸出産品として保護するため、なにかいだ、生豆の持ち出しを禁止していたが、17世紀後半になって、オランダやフランスによって東南アジアにも移植、栽培されるようになった。その産地は年降水量1300~2300ミリの、南北20度以下の熱帯地方に限られている。写真②はグアテマラのコーヒー園。コーヒーは、果実を収穫し(写真③)、一般に、天日乾燥(写真④)したのち、脱肉機(写真⑤)にかけて果肉と内果皮をとり去って輸出される。

コーヒーには、カフェインが1~2パーセントふくまれるため、中枢神経に対して興奮作用をひきおこす。疲労をいやし、眠気をとりぞき、作業能率の向上に効果がある。また、傷心、利尿薬効果もあり、アルコールのような副作用や慢性中毒はみられない。カフェインと糖の苦味はしめ、独特の芳香と風味が好まれるが、なかでも、ジャマイカ島の「ブルーマウンテン」は最高級品とされ、(コロンビア)、スマトラの「マンダリン」、アラビカ産のモカ(エチオピア)なども賞用されている。

コープ Edward Drinker Cope 1840-97 アメリカ合衆国の古生物学者。フィラデルフィアに生まれ、鉱業に従事したのち、ペンシルベニア大学教授をつとめる。北アメリカ大陸の化石調査を指導し、魚類、爬虫類、哺乳類に関して多くの論文を残した。とくに定向進化の立場から、哺乳類の歯牙の系統発生や、脊椎動物の進化過程などに新説をたて、学界に論争を呼びおこした。新ラマルキズムを代表するひとりとされる。

こぶし *Bos taurus indicus* 〔牛〕 哺乳類ウシ科の家畜。ゼブー、闘牛ともいふ。東南アジア、アフリカで飼われ、役牛、乳牛、肉牛として利用される。肩に大きなこぶがあるのが特徴で、きわめてじょうぶで粗食に耐える。ヨーロッパのウシと同祖先かどうかには異論があるが、家畜化の起源はヨーロッパのウシより古い。

コフカ Kurt Koffka 1886-1941 ドイツのゲシュタルト心理学の創始者のひとり。1908年、バベルン大学を卒業し、18-24年にギンセン大学教授、アメリカ合衆国に移住した27年以後、スミス大学教授をつとめた。とくに知覚、記憶などに関する実験的研究につとめた業績を残しており、主著「ゲシュタルト心理学の原理」(35)は、心理物理学を体系的に論述した書として重要である。

こふさか *Melanthia japonica* 〔花〕 昆虫類コガネムシ科の一種。日本特産で、本州以南の山地や平地に多くみられる。体長は3センチ内外、全体に茶色で、

前翅には灰褐色の短毛が密生し、粉をふいたように見える。幼虫は植物の根を食害し、成虫は打木に飛来すること多い。近縁種には大型のオオコブサコガネがある。

こぶし *Magnolia kobus* 〔学〕 双子葉植物モクレン科の落葉高木。日本と朝鮮半島の山地に自生し、觀賞用に庭にも植え入れられる。葉は倒卵形で先端が急に尖り、長さは10センチ内外、3〜4月ころ、新葉の出る前に色の香気のある大形の花を開く。花弁は6枚でモクレンの花に似る。近縁種には、香と花弁の区別がつかないシデコブシ。葉をかむと甘い味がするタムシバがあり、タムシバのつぼみは鎮痛、鎮静剤として利用される。

コブデン Richard Cobden 1804-65 イギリスの政治家。自由貿易運動の代表人物。1838年、数人のマンチェスター商人とともに反穀物法同盟を組織し、41年に下院に就いてブライトと協力。46年、穀物法廃止に成功した。熱心な平和主義者で、国際仲裁裁判と軍縮をとなえたほか、クリミア戦争、アロー号戦争に反対した。

コブド *Khabd* モンゴル西部、同名の州都。旧称ジルガント。人口約6000。モンゴル・アルタイ山脈の北側、コブド川谷に位置する商業都市で、1751年に清朝の外モンゴル西部支配の拠点として建設。ロシアとの貿易も市にみられる。現在では、国内東部のウランバルール、シベリア、中国の新疆(シンチヤン)ウイグル自治区などと道路交通がひびき、通商のほか、建築資材、

毛織物、食品加工業などがさかぬ。

コプト *きょうと* 〔教会〕 キリスト半信説を継承して5世紀にローマ教会から離脱したエジプトのキリスト教会。名称の由来は、アラビヤ人が征服する前この土地の土着のエジプト人とその言語を、アラビア語でコプトと呼んでいたことによる。451年のカルケドン公会議はアレクサンドリア大司教ディオスコラスの主張する(半信説)を要綱として採択したが、これを契機として、アレクサンドリア総大司教の首位権を認めるコプト正統教会が成立した。その後、ビザンティン帝国皇帝ゼノン(在位474-491)の、その治世にコンスタンティノール大公教会との抗争を調停しようとしたが、失敗に終わった。7世紀にはエジプトを征服したイスラム勢力の徹底的な弾圧を受けて衰退したが、19世紀にいたって教会活動の自由をとりもどした。教会法典は、アボクリア法使行伝や古代公会議文書、パコニウス、マカリオス、シェムートらコプト教父の著作にもとづいて制定され、コプト語の典礼を使用する。現在、アレクサンドリア総大司教および4人の司教の統治下で、信徒数約85万を数え、コプト式典礼にのっとった教会音楽やコプト美術のすぐれたものを残している。なお皇帝レオ13世によりローマ教会への統一を認められた一派は、アレクサンドリア総司教下のカトリック派—コプト教会と呼ばれ、信徒数は約3万。また、コプト人プロテスタントは約5万人である。

コプト *びじゅつ* 〔写真項目〕



1



2



3

コプト *びじゅつ* 〔美術〕 古代エジプトにおいて、キリスト教の半信説を奉じたコプト人の美術。2世紀末ころから、ナイル川中流市より下流域に、古代エジプト美術と、おもにキリスト教美術の影響を受けた独特の様式の美術を展覧させ、5〜6世紀ころに隆盛をもつた。7世紀ころ、アッバース人が侵入してしだいに衰退したが、その後もイスラム文化に影響を与えつづけた。古代エジプト、ヘルメニア、ビザンティン、シリアなどのさまざまな文化の影響を受けたが、コプト美術の様式が確

立されるのはローマ帝政末期で、全体的にはキリスト教文化の一分画と考えられる。建築では修道院が多く、サッカウの聖リミア修道院遺跡には5〜10世紀の建築が残存し、考古学的資料も豊富である。シムラークの修道院は、白や赤のレンガで建設されていることから、「(修道院)〈赤修道院〉」などの名をもつものもある。ビザンティンの影響である円蓋をもち、浮彫りや透彫の繊細な装飾や壁面をそなえ、壁面の内側にはキリスト教的なものも多い。コプト美術を代表するものは、金属器、陶器、

織物などの工芸品であるが、なかでもコプト織がすぐれている。サッカウやアルシエの両所から出土するが、そのほとんどは埋葬用の衣である。縦行つづきの織が多く、麻を縦に織り、羊毛糸を緯(よこ)糸に織りこんでいる。また、初期には「青糸」に関連する主題、後期にはイスラム的な主題が多い。考古学上、コプト織で、●はクレタート出土、●はアルシエ出土、●はカイロ出土。コプト教会は5世紀に要綱としてローマ・カトリック教会から離脱したが、独自に今日まで存続している。

コープマン George Simon Kaufman 1889～1961
アメリカ合衆国の劇作家。〈偉大な合作者〉のニックネームをもち、各作家とつぎつぎに組んで、独特の喜劇的才能を発揮した。リスキンドとの合作で、ガーシェン音楽のミュージカル『君がためわかれ歌い』(1931)、ハートとの合作『それを持ってはいられない』(36)、ワーバーとの合作『ステューディオ』(36)が有名。

コブラ ————【写真項目】

コブラ cobra (英) 乾燥したココヤシの胚乳。天日。かまど、熱風などで乾燥し、コブラ油の原料とする。フィリピン、インドネシア、セイロン島、マラヤ諸島などが主産地。世界の重要油断資源。

ゴブランオリ ————【写真項目】 次ページ。

コーブランド Morris Albert Copeland 1895～
アメリカ合衆国の経済学者。シカゴ大学に学び、1921年からコーネル大学で経済学を講じる。27年から連邦準備局などに関与して実務的な活動をはじめ、30～36年、ミシガン大学の教授。33～39年、中央統計局長。予算調査局長などを歴任し、44年以降、ふたたびコーネル大学の教授職について。専門は金融論、貨幣論で、主著『アメリカに市けるマネー』フローに関する研究(51)。

コーブランド Aaron Copland 1900～ アメリカ合

衆国の作曲家。ニューヨークでユダヤ系ロシア人の家庭に生まれ、21歳でパリに留学し、フォンテンブロー音楽学校でブーランジェに作曲を学んだ。1924年に帰国して、25年の組曲『劇場のための音楽』、26年の『ピアノ協奏曲』で認められた。このうち、『舞踏交響曲』(29)、管弦楽曲『エル・シロン・メヒコ』(36)、バレエ曲『ビレー・ザ・キッド』(38)と『アバウチアの春』(44)、『交響曲第3番』(46)など多くの作品を発表した。管弦楽曲が多いが、作風は、フランス現代音楽の技巧に加えて、ジャズやアメリカ民謡をとり入れるなど、ポピュラー音楽性をもち、雄壮簡潔なスタイルに特色がある。『ピアノと弦のための四重奏曲』(50)では、十二音技法を採用した。著書『現代音楽入門』(41)など。

コプリ John Singleton Copley 1737～1815
アメリカ合衆国の画家。絵字で、それまでのイギリス絵画の模倣から脱した半直線縮写画法を開拓し、若くして認められた。しかし、1774年、招かれてロンドンに渡って以後は、伝統的なイギリス貴族階級の華やかな画風に変わり、聖書や北緯に取材した歴史画と肖像画を多く描いた。『チャタム卿の死』、『ジフツタルの夜間』など。

コブレツ Koblenz ドイツ連邦共和国(西ドイツ)西部、ラインラント・プファルツ州の都市。人口11万9400(1971)。カールから鉄道まで南南東約80キロ、ライン川とモゼル川の合流点に、前9年にローマの軍事基地として創建された都市で、河川交通の要地であった。中

世フランク時代にたがが国王の居住地となり、11世紀はじめ以来、なかくトリール大司教の支配下におかれ、モゼル産ワインの取引の中心として知られた。17～19世紀、対フランス戦争などの戦場となって被害を受け、1919～29年には連合国によるラインラント支配の本拠がおかれ、第2次世界大戦中の45年、連合国に占領された。大戦中は市街の約85パーセントが破壊されたが、戦後に近代都市へと復興され、商取引のほか、機械、家具製造、化学などの工業がさかん。なお、破壊をまぬがれたエーレンブライトシュタイン城は有名。

ゴブロ Léonce Laurent Edmond Goblot 1858～1935
フランスの哲学者。唯心論的実在論をとるエッセイ、フーレルに学び、リオン大学で哲学の講義を担当。それまでの伝統的な記号論哲学を批判して、『論理学概論』(1918)を著した。

ゴブアフ Kovrov ソビエト連邦、ロシア連邦共和国ウラディミル州の都市。人口12万3000(1970)。モスクワとゴリキーを結ぶ鉄道のはざま中間点に位置する。18世紀以降、今日にいたるまで機械物を中心とする機械工業の中心地で、ほかに機械工業も発展している。

ゴぶんえい 呉文美 1205～767 中国の南梁の詞人。字は君特、号は夢窓、愛敬、浙江省四明の人。旧姓は謝で、兄の謝道玄、弟の謝元暉も詞人。一生官途につかず、蘇州、杭州のあいだを往復しながら、呉郡、買田道、道



ゴアラ(科) Elopidae (学) 爬虫類へ目ゴアラ科のヘビの総称。ヘビとして有名なゴアラは、ホウオ、陸奥トモエトの中部へビで、アメリカとアジアに生息する。かまきりをもちあひ、首のあたりをわらうたゴアラがよく知られているが、これは無実したときに敵を威嚇する姿勢であり、首の部分のフンドの若い肋骨を横に張って、たるんだ皮膚をのぼすことからきている(写真①)。インドゴアラ(写真②)はフンドの幅がもっともひろく、背面には横線模様がある。メガラヘビの別

名もあるが、模様は地方によっても個体によっても差異があり、特にインドの西側では縦線形。東側では横線である。ゴアラ科のなかには、アマサヘビ、サンゴヘビなどのようにフンドをひろげないものもある。ゴアラの毒は、オフィオキシンという神経毒で、かまれると全身の力を失い、呼吸麻痺をおこして死にいたる。上顎先端に露るの毒牙が鋭く毒液をつながり、威嚇の効力がないとき、最後の手段として敵に近づいてかむが、本来は攻撃的ではない。インドのゴアラ使いは、前に

合わせ身をくらえするゴアラ狩りを見物にするが、この動作はしつは繰り返してない。一般にゴアラの目は退化しているが、雷やドラムの音を聴くと知覚し、この振動に合わせて左右にゆるい動き威嚇の姿勢をとる。ゴアラの主食はネズミで、カエルや鳥類も捕食する。写真③はカエルを捕らえたシロクゴアラ。エジプトゴアラは、クレオパトラが自殺に用いたといわれ、体長4メートルに達するキングゴアラは世界最大のヘビである。